



独立行政法人

国立病院機構

National Hospital Organization

中国四国グループ

職場 紹介

技術を磨く。夢を叶える。
あなたの笑顔をまっています。

● 作業療法士



作成

国立病院理学療法士協議会

中国四国部会

国立病院作業療法士協議会

中国四国グループ部会

国立病院言語聴覚士協議会

中国四国グループ部会

ごあいさつ

このたび、中国四国の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士3協議会共同で職場紹介パンフレットを作成しました。

職場紹介パンフレットは3職種共通部分の施設紹介と各部門紹介から構成され、就職活動をしている学生の皆様に、就職を意識する上で必要な情報が提供できるように各部門の内容を創意工夫して掲載しております。

また、各施設の執筆担当者は学生の皆様が、パンフレットを手にとってくれることをイメージしながら、それぞれの施設の特徴を踏まえて作成しておりますので、ぜひ現場の雰囲気を感じていただき、就職活動の一助となれば大変嬉しいです。

我々は、国立病院機構の仲間として皆様とともに働けることを心より願っております。



国立病院理学療法士協議会
中国四国部会
会長 平野哲生



国立病院作業療法士協議会
中国四国グループ部会
会長 片岡靖雄



国立病院言語聴覚士協議会
中国四国グループ部会
会長 野々篤志

中国四国グループ関連病院・施設の紹介

* は、ST不在施設(令和5年7月1日現在)

鳥取県

鳥取医療センター
米子医療センター*

島根県

松江医療センター
浜田医療センター

岡山県

岡山医療センター
南岡山医療センター
邑久光明園
長島愛生園

広島県

呉医療センター
福山医療センター
広島西医療センター
東広島医療センター
賀茂精神医療センター*

山口県

関門医療センター
山口宇部医療センター
岩国医療センター
柳井医療センター

徳島県

東徳島医療センター
徳島病院

香川県

高松医療センター
四国こどもとおとなの医療センター
大島青松園*

愛媛県

四国がんセンター
愛媛医療センター

高知県

高知病院



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士24名

言語聴覚士9名

当院の特徴

『脳』と『こころ』の病院です。

当院は鳥取県東部を診療圏域とする中国グループの「精神疾患」に関する中心的施設であるとともに、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害に関する専門的な医療等の機能を備えた医療施設です。特に地域医療として回復期リハビリテーションと認知症の診療を行っており、近年は「パーキンソン病センター」を開設し、県内外の患者さんに対し専門的なリハビリテーションを提供しています。

職場責任者からのメッセージ

当院リハビリテーション科では、働きがいのある職場づくりを目指すとともに、療法士としての社会性や専門性を身につけていけるよう、職員一同日々研鑽を積んでいます。また、組織の中においても自己の役割と責任を持って、患者さんファーストの精神で臨床業務に取り組んでいます。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地

電話番号（代表）：0857-59-1111

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://tottori.hosp.go.jp/>

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

■身障部門

回復期チーム／脳血管障害や整形疾患（下肢骨折、頸椎症等）を対象に、自宅復帰に向けてのリハビリテーションを行っています。

難病チーム／パーキンソン病、ALSなどを中心に、長期療養入院から短期集中リハビリテーション入院までサポートしています。

重心チーム／重症心身障害児(者)に対しては、遊びを通して個性や主体性を発揮できるよう取り組んでいます。

■精神部門

閉鎖病棟(急性期・慢性期)、医療観察法病棟、認知症病棟、精神科デイケアと、幅広い領域で作業療法を実施しています。

その人らしさを尊重した、その人らしい生活の実現に向け「共に一歩歩みだす」を理念として取り組んでいます。



※写真④回復期病棟の畑。野菜や花を作っています。2022年はスイカが収穫できました。

※写真⑤⑥r-TMSによる上肢麻痺治療の臨床研究を開始。IVESとの併用で効果を高めます。

※写真⑦⑧VR治療機器であるカグラを導入し、上肢機能障害、失調、複視・めまい、高次脳機能障害、バランス障害など幅広い対象に実施していきます。

教育体制

新人教育プログラムは、リハビリテーション科全体のものに加え、作業療法部門独自のプログラムも作成しています。

パーキンソン病の運動療法を専門的に行うLSVT®BIGや3学会合同呼吸療法認定士など、各種資格取得を支援しています。

学術活動

学会発表：2022年 1件

「食事時の姿勢異常に対して利き手交換が有効だったパーキンソン病の一症例」

(国立病院総合医学会)

先輩からのメッセージ

当院では、幅広い対象の患者様へのリハビリテーションを経験することができます。また、新たな治療方法の導入により多種多様なリハビリテーションを提供することができます。

新たな事については勉強会や意見交換会が頻繁に行われるため、安心してチャレンジできます。是非、国立病院機構中国四国グループと一緒に働きましょう。(入職2年目)





対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士3名

当院の特徴

整形外科（上下肢・手指の骨折、人工関節、靭帯損傷等）呼吸器・循環器の内部疾患、がん（周術期含む）、緩和ケア病棟患者も含め、様々な疾患を対象としています。術後離床が必要な患者に対する早期介入を行っており、土・祝日、長期休暇時もありハビリテーションを提供しています。

職場責任者からのメッセージ



1人1人がスタッフ同士で相談・協力しあってリハビリ部門を盛り上げていけるよう、声掛けしあえる雰囲気づくりを目指しています。個々の能力を高めていくことも必要ですが、組織としてスタッフを支え合うシステム作りを考えています。各スタッフとコミュニケーションをとって働きやすい職場になるよう心掛けています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒683-0006 鳥取県米子市車尾4-17-1
 電話番号（代表）：0859-33-7111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://yonago-mc.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は整形外科にて手術が毎週行われ、リハビリテーション科では主に手術後の急性期のリハビリテーションを行います。特に、作業療法部門では、手の外科の専門医がリハビリテーション科の医長でもあり、専門的な手の外科のリハビリテーション介入を行っています。

その他、消化器外科で大腸がんなどの術後患者さんや抗がん剤の化学療法中の患者さんへ廃用予防のための介入の他、COPD、肺炎患者さんなどの呼吸リハビリテーションなど、様々な疾患の患者さんの治療に関わっています。



教育体制

新人教育プログラムに則り進めていきます。また指導体制も、作業療法士のみでなく、理学療法士のスタッフとも隔てなく、治療についての相談が出来る環境です。さらに週に複数回、医師を含めたカンファレンス、回診があり、他職種とも相談しやすい環境です。リハビリテーション科内では月に1回、持ち回りで勉強会を行っており、症例報告等でスタッフ間でディスカッションを行う機会もあります。またOT専門分野として、当院から日本ハンドセラピー学会内にある資格試験の支援を受けた実績もあります。

学術活動

作業療法部門では自分のペースで、学会参加や学会発表を行っております。科内では発表に関して必要な場合は、医師に協力を依頼したり、他部門との共同研究した例もあります。

他部門との連携

医師、病棟看護師、専門看護師、他のコメディカルとの連携は日々実施されています。その他、地域連携として退院支援のため、メディカルソーシャルワーカーと連携し、必要な際には退院前カンファレンスに参加し、ケアマネージャーや在宅ケアを行うスタッフと情報共有しています。また、糖尿病教室、呼吸器勉強会、市民講演会などにも参加しています。

先輩からのメッセージ

当院は、急性期医療の提供を担っており、急性期リハビリテーションに対して不安や怖さもあるかと思えます。入退院の回転も早く、慌ただしい毎日ではありますが、様々な疾患を経験することができるのが、魅力の一つです。日々勉強、勉強で分からないことも沢山ありますが、OT・PT問わず様々な分野でのスペシャリストである先輩方が的確に指導して下さるので安心してください。職場の雰囲気としても職種の隔たりなく、リハビリテーション科全体として明るい職場です。



松江医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士10名

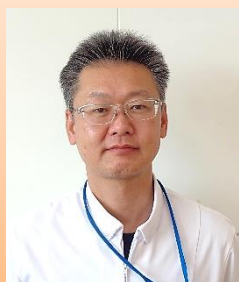
作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

島根県東部を診療圏として、呼吸器疾患・神経筋疾患・重症心身障害医療の3領域を専門とした医療機関です。特に呼吸器疾患は地域における「呼吸器病センター」として自負を持ち診療にあたっています。

職場責任者からのメッセージ



今年度リハビリテーション科の目標は「経営改善に貢献する」とし、各自の平均診療点数の向上と質の高い医療を継続して提供し患者確保にも努めることとしました。またワークライフバランスも重視し、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指しています。松江はチームワークが良く、困ったときには皆で助け合うことができる誇らしい職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒690-8556 島根県松江市上乃木5-8-31

電話番号（代表）：0852-21-6131

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://matsue.hosp.go.jp/>

作業療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり 遅出あり

部門紹介

当院は神経難病に対するリハビリテーションを行っています。

パーキンソン病関連疾患には、短期集中リハビリテーション入院を行っており、身体機能向上やADL動作の向上に向けた介入から疾病教育まで幅広い視点を持って取り組んでいます。

ALSなどの長期入院の方に対しては、意思伝達装置の導入などコミュニケーション支援を中心とした介入を行っています。

呼吸器の分野では在宅生活に向けたADL動作支援や環境整備に対し取り組んでいます。

がんの分野ではトータルペインの緩和に向けた関わりを行っています。

発達障害の分野では遊びや学習を通して発達を促す支援を行っています。

伝の心

誰かと話してみませんか、伝の心で。

出典：日立ケーイーシステムズ



当院OT部門の特徴の一つ意思伝達装置「伝の心」



松江医療センターキャラクター 松丸君

教育体制

新人教育プログラムとして理学療法と共通部分は、OSCEを導入し、入職後から臨床につながるサポート体制を敷いています。

指導者や相談できる療法士を配置し、安心して日々の業務に取り組める体制を敷いています。最初の数か月間は密に指導者からのフィードバックを行います。

学術活動

呼吸器疾患、神経難病の中核病院として3学会合同呼吸療法認定士のポイントが取得できるセミナーや神経難病支援にかかる講演会などに関わっています。

令和4年度実績：学会発表1件(クライシスプランのその後)
講師4件

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に多職種（医者、看護、薬剤、メディカルソーシャルワーカー）とのカンファレンスが開かれます。カンファレンスを通し退院前訪問や家族指導など行っております。

筋ジストロフィーの患者さん達と職員とで車いすサッカーチームを作り活動しています。

先輩からのメッセージ

入職して4年目になります。

当院のリハビリテーション業務は、機能訓練だけでなく環境調整、ADL指導など役割は多岐に渡るのが特徴です。当然、学生時代には習わなかった事も沢山できますが、その時は気兼ねなく先輩方に聞くことができます。私自身も1年目は患者さんに介入するにあたり不安でよく相談に乗って頂き、安心することができました。ぜひ国立病院機構に興味を持って頂けたらと思います。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士17名

作業療法士12名

言語聴覚士5名

当院の特徴

当院は、県西部唯一の3次救急医療から在宅復帰まで、幅広くカバーする地域の中核病院です。理学療法は、急性期・回復期・地域包括・緩和ケアに大きく分かれており、脳血管疾患、心大血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、がん患者等の幅広い疾患を対象にリハビリテーションを行っています。

職場責任者からのメッセージ



我々、浜田医療センターリハビリテーション科は「仲間を思いやる気持ち」「感じる心」「地域医療を支える精神」を備えたスタッフ一人ひとりが、日々、成長し続けている若き集団です。患者さんやご家族に信頼される医療人として、そして他職種からの期待に応えることのできるチーム医療の一員として、自らの課題や組織の目標に向き合いながら、仲間たちと共に努力を続けています。また、ワークライフバランスを保つことにも積極的に取り組み、誰もが働きやすい職場づくりも推進しています。是非、浜田医療センターリハビリテーション科から、皆さんの未来につながる大切な一歩目を踏み出していただきたいと願っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒697-8511 島根県浜田市浅井町777-12
 電話番号（リハビリテーション室）：0855-28-7098
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://hamada.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は、島根県西部地区唯一の3次救急医療に指定されており、超急性期から在宅復帰まで幅広く医療を担う地域の中核病院です。院内には急性期病棟だけでなく、回復期病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟とあり、対象疾患は、整形・脳疾患・呼吸器疾患・心臓・がん・内部疾患など様々な疾患と病期を経験することができます。

現在、リハビリテーションスタッフ34名の中で12名のOTが在籍し、日々の臨床に取り組んでいます。OTの中には、呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了者も複数名おり、地域医療に貢献できる人材の育成にも取り組んでいます。



教育体制

教育体制については、リハビリテーション科全体で力を入れて取り組んでおり、新人さんに対しては、一人一人に指導者を付けたプリセプター制度を行っています。新人教育プログラムも充実させており、院内での症例報告会や移乗などの介助方法指導から各疾患毎のリスク管理勉強会なども実施しており、急性期の中でも安心して臨床に入っていける環境を用意しています。

学術活動

- ◇3学会合同呼吸療法認定士 2名
- ◇がんのリハビリテーション研修修了者 6名
- ◇浜田准看護学校への講義
- ◇地域医療従事者研修会講師など

他部門との連携

多様な役割の病棟があり、その中で同じ担当のPT、STとの連携や、転棟時の情報交換など、お互いにコミュニケーションを積極的に行いながら連携を行っています。科内連携以外にも、リハビリテーションカンファレンスでは、主治医をはじめ、看護師、ソーシャルワーカーらと退院支援に向けて連携をとったり、退院前訪問指導でADL動作の確認を行い、地域のケアマネージャーやリハビリ見学に来られた家族様、地域施設のスタッフ等、多くの地域連携も行っています。

先輩からのメッセージ

経験3年目です。当院の特徴としては、急性期から回復期、地域包括、緩和ケアまで幅広い領域を経験し、学ぶことができます。

新人研修は各疾患毎の勉強会やプリセプターと共同で作成する症例発表などがあり、多くの臨床経験を積むことができます。

浜田は自然豊かな地域であり、夏は海遊びやサーフィン、冬はスノーボードなどアウトドアが体験が沢山できます。海、山、川での遊びも教えてくれる先輩方が揃っています（笑）





岡山医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

運動器	循環器	脳血管	新生児	呼吸器
がん	神経難病	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士22名

作業療法士7名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院は平均在院日数が約10.5日の急性期病院です。対象となる疾患は、整形外科・循環器・脳血管・新生児・呼吸器・がん等多岐にわたります。早期介入と早期の機能回復をスローガンとし、介入は入院直後または術後当日の早い段階から行われます。心臓リハビリテーションでは心肺運動負荷試験に基づいた運動指導や日常生活指導などを含む、包括的かつ集学的なリハビリテーションを行っています。呼吸ケアサポートチームや緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどにも参加し、多職種と協同した活動も行っています。

職場責任者からのメッセージ

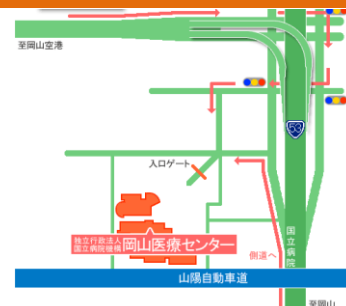
当院は急性期医療に特化しており、上記のように平均在院日数の短縮化を目指しているため、リハビリテーション科には早期介入と介入効果の向上が常に求められます。

そのような患者さんや病院からのニーズに応えるためにも、当科では職員研修の充実を図っています。新人・中堅職員・役職者など世代別対象の研修やプレゼンテーション指導に注力し、在籍している職員がインセンティブを感じられる職場作りに努めています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-1192 岡山県岡山市北区田益1711-1

アドレス（代表）：504-info@mail.hosp.go.jp



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門は、7名在籍しています。
脳血管疾患、神経難病、呼吸器疾患、整形疾患（外傷、脊椎疾患、人工関節置換術等）、がん患者さんを対象としています。早期から作業療法介入を行い、機能回復やADL・QOL改善にむけた取り組みを行っています。
また、金川病院には1名が在籍し、自宅復帰を目標に作業療法を行っています。



教育体制

新人教育プログラムは、新人1人に対してプリセプターがつきます。患者さんの評価・治療の指導や相談ができる体制を整えています。また、リハビリテーション科内研修会を定期的で開催し、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士とともに職員全体のスキルアップを図っています。

学術活動

学会発表：令和4年度 1件
症例検討会（1回/週）、院内勉強会講師、グループ研修講師 院外勉強会講師

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に多職種カンファレンス（医師、看護師、MSW等）を実施しています。
自宅復帰の際に、必要に応じ退院前カンファレンス実施し病院から在宅へスムーズに移行できるように支援しています。

先輩からのメッセージ

当院は急性期総合病院として、多種多様な分野・疾患を対象とした作業療法を提供しております。様々な知識・技術が習得出来ることはもちろん、カンファレンス等での多職種連携も盛んに行われており、作業療法士としての基礎を築くことが出来る体制が整っています。





南岡山医療センター

対象病期

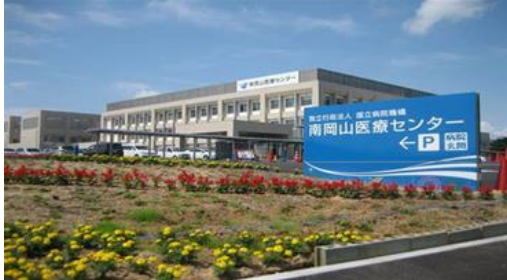
高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士11名 作業療法士10名 言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は、急性期病棟、神経・筋疾患病棟、呼吸器感染症病棟、重症心身障害児者病棟を有しています。リハビリテーションにおいても入院・外来患者さんの急性期・慢性期に介入しています。職員は、子育て世代、介護世代等と各年代層の背景に対応できるようワークライフバランスを支援しつつ、職員の目指すキャリアアップも支援しています。

職場責任者からのメッセージ



職場は新卒1年目から、30年前後までの経験年数を有するスタッフで構成されています。臨床業務について常に先輩からの指導や助言が得られる体制です。職員間のコミュニケーションも経験年数に関わらず連携がとれるようにしています。また、ハラスメント防止についても積極的に職員への啓発を行うとともに、メンタルサポートにも気を配っています。「職員みんなが働きやすい職場、働き甲斐のある職場、病院のために頑張る職場」をモットーにしています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066

電話番号（代表）：086-482-1121

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://minamiokayama.hosp.go.jp/>

アクセス：https://minamiokayama.hosp.go.jp/about/index_3.html

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

急性期病棟（整形・呼吸器・内部疾患・心臓リハビリテーション）、神経・筋疾患病棟（パーキンソン病・ALS・筋ジストロフィー）、呼吸器病棟（COPD・間質性肺炎・肺気腫）、重症心身障害児者病棟の患者さんを担当しています。様々な疾患に関わることができ、急性期から維持期まで幅広く経験できるのも当院の特徴です。



教育体制

新人教育では、新人スタッフ1名につき、総合的な指導者を1名配置しています。加えて、メンターを配置し、定期的なメンタルサポートも実施しています。この体制は1年間継続し、新人スタッフが幅広い疾患に対応しています。

学術活動

学会発表：令和4年度 なし

その他：県士会主催研修会や国立病院機構主催研修会、病院主催による呼吸ケア教室・活き息さわやかに過ごす会の講師。

学会発表に際しては、テーマ探し、研究計画、抄録原稿作成、論文作成、発表原稿等について、丁寧に指導をしています。

認定作業療法士、呼吸療法認定士、MTDLP指導者、心不全療養指導士等の資格取得者が複数名おり、資格取得へのサポートも行っています。

他部門との連携

定期的に多職種カンファレンスを実施し、チーム医療を行っていくために、患者さんについての情報共有や目標設定を行います。退院に向けて医療者間のコミュニケーションの強化を大切にしています。

神経・筋疾患病棟では、コミュニケーションツールの確保として、特殊スイッチによる意思伝達装置の導入や操作、透明文字盤の検討等を多職種で検討していきます。

先輩からのメッセージ

入職し3年目になります。リハビリテーションの業務内容は機能訓練、環境調整、ADL指導を行っています。1年目はプリセプター制度で少しずつステップアップできる環境の為、安心して業務にあたることができました。先輩も温かく些細なことも相談しやすいです。また、休暇も取得しやすくプライベートとの両立もできる環境です。





対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

総合診療棟外観



邑久光明園全景



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士3名

作業療法士2名

言語聴覚士1名

当院の特徴

国立療養所邑久光明園は、全国に13ある国立ハンセン病療養所のうちのひとつで、岡山市の東南3.5Kmの瀬戸内海に浮かぶ長島にあります。瀬戸内海の温暖な気候と四季折々の美しい自然に満ちあふれた環境は、療養に最適の地とされております。

ハンセン病はらい菌によって引き起こされる慢性の感染症です。この菌は神経組織との親和性が高く、末梢神経がおかされることによって生ずる神経障害がもっとも重要な症状です。現在では、抗生剤を中心とする治療法が確立されており、完治する疾病です。

しかし、現在当園におられる入所者様の多くは有効な治療法がない時代に発症したため、重複した障害を後遺症として残してしまいました。また、入所者様の平均年齢は約88歳と高齢化しています。そのため、リハビリテーション及び介護予防が重要となっています。

職場責任者からのメッセージ

邑久光明園の職員は入所者の皆さんの一日一日を大切に、今後の人生を実りあるものにできるよう仕事に従事しています。

また、職場はワークライフバランスの取り組みを推進しており、働きやすい職場環境を整えています。業務は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・義肢装具士が連携し、入所者の皆さんがよりよい生活ができる様に努めています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253
 電話番号（代表）：0869-25-0011
 リハビリテーション室まで
<https://www.mhlw.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では、機能訓練、ADL訓練、福祉用具の提案、自助具の作成、環境調整などを実施しております。また入所者の皆様の平均年齢は約88歳と高齢化している為、介護予防は勿論の事、QOLを最大限に保つ為の生活支援に力を入れています。

入所者の皆様が毎日安心して心豊かな生活を送れる為のサポートをする事が、当園における作業療法士の役割です。

また当園ではふれあいを大切にするため、園内での夏祭りやカラオケ大会等の行事に積極的に参加しています。



教育体制

新規採用者・転入者には、入職後3日間の研修を実施しており、当園の理念や活動内容、ハンセン病の歴史について深く学ぶ事ができます。

科内では、1日に1回ミーティングを実施して情報共有を図っており、科内全体で業務のサポートをできる体制を整えています。

園内での研修会は、各委員会が主催して定期的実施しており、職員全体の医学知識の向上に力を入れています。

他部門との連携

当園では、①嚥下サポートチーム（SST）②人生サポートチーム（JST）③栄養サポート・創傷対策委員会（NST）④医療安全管理委員会の4つのチームを立ち上げています。また病棟・入所者センターの職員と連携し、入所者の皆様の生活上の問題点に対して即座に対応できる環境を整えています。

先輩からのメッセージ

令和4年度より当園へ転入となりました。当初は新しい環境に不安ありましたが、園内・科内でのサポート体制が整っている為、自信を持って業務に取り組む事ができるようになりました。

また、経験豊富で勉強熱心なスタッフが多いので、セラピストとしてスキルアップできる環境も整っています。みなさんも国立病院機構中国四国グループで一緒に働いてみませんか？





国立療養所 長島愛生園

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 4名

作業療法士 2名

言語聴覚士 1名

当院の特徴

当園は1930（昭和5）年に、日本で初めての国立療養所として誕生しました。その当時ハンセン病が感染症であることはわかっていましたが、有効な治療がなく、国の政策として療養所への隔離が行われました。入所者の皆様は、ハンセン病という病気は治っているにもかかわらず、高齢化や後遺症、今なお残る偏見・差別により社会復帰が困難なため、当園で生活されています。

職場責任者からのメッセージ



当園は入所者ファースト、職員もファーストをモットーに全職員が一丸となり、日々の業務に取り組んでいます。入所者の皆様と接する中で、社会的背景を理解し、ハンセン病の歴史を深く感慨するものと思います。またワークライフバランスも重視しており、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指しています。チームワークではどこよりも優ると自負している当園の理学作業療法室に、ぜひ一度見学にお越し下さい。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4592 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6539

電話番号（代表）：0869-25-0321

理学作業療法室：泰地（たいち） 内線：828

<https://www.hosp.go.jp/~aiseien>

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

ハンセン病およびハンセン病後遺症に対するこれまでの作業療法は、末梢神経障害や機能障害による二次的病変や後遺症を予防・軽減することを目的としていました。

しかし、現在では入所者様の高齢化に伴い、残存する身体機能や後遺症を考慮した治療プログラムを立案しています。たとえば、大腿骨頸部骨折などの急性期から維持期、健康に過ごすための介護予防の運動など、入所者様の必要性に合わせて行っています。

また変形や欠損等の機能障害については、機能回復を目的に義肢装具士と連携しています。



教育体制

入職後は、個人の習熟度に応じて先輩作業療法士または理学療法士から指導を受けることができます。指導を受ける期間に制限はありません。納得できるまで知識の習得・技術の指導を受ける環境であります。

学術活動

学会発表：令和4年度 なし

他部門との連携

園内委員会主催で介護予防活動（レクリエーション）を第2・4の火曜日に実施しています。また各部署でのカンファレンスについても、医師、看護師、介護員、MSW、理学療法士、言語聴覚士とともに定期的に参加しています。必要に応じて一般舎への訪問、センターへの訪室など他部署と協力し、退院時指導にも努めています。

先輩からのメッセージ

入職し15年目になります。先輩理学療法士や医師、入所者の方々から暖かいご指導と声援をいただき、少しずつですが自信をつけることができました。経験の豊富な職員が多く、公私にわたり適切な助言や支援を受けることができる施設です。また平成30年6月からは新しく改築した総合診療棟で臨床をしています。新しい建物で、清々しい気持ちで働くことができる長島愛生園です。





対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士20名 作業療法士13名 言語聴覚士6名

当院の特徴

当院は37診療科、病床数700床を有する国立病院機構の中の大規模病院の1つであり、「地域がん診療連携拠点病院」、「3次救命救急センター」、「地域周産期母子センター」、「災害拠点病院」、「地域医療支援病院」などの機能を有する中核的な高度急性医療機関です。

職場責任者からのメッセージ

呉医療センターリハビリテーション科では相互尊重コミュニケーションを実践し、働きやすい職場環境を実現しています。約40名のスタッフ各々が役割を担い、科内で活躍できる場面が準備されています。意見交換が活発に行われ、一人一人の思いや考えを大切に、みんなが納得・安心して主体的に業務に取り組める職場です。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒737-0023
 広島県呉市青山町3丁目1
 電話番号（代表）：0823-22-3111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://kure.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院には13名の作業療法士が在籍し、そのうち10名が身体障害領域、2名が精神障害領域に従事しています。当院の作業療法部門の特徴は、急性期病院であるため、発症後まもない重症の患者さんが多いこと、もうひとつは、緩和ケア病棟（令和4年現在緩和ケア病棟は閉鎖中）・精神科病棟もあるため、体（身体障害領域）だけでなく心（精神障害領域）のケアを必要とされる方も多いことです。

365日診療体制をとっており、リハビリテーションが重要となる発症早期の患者さんにシームレスかつ満足度の高い介入を行っています。幅広い視野をもった作業療法士を多く育成しています。



教育体制

当院では、“新人を大切にすること”がひとつの文化として根付いています。一年目は各チームをローテーションし、社会人・作業療法士としての基礎を身につけることができます。新人にはプリセプターがつき、1年を通してゆとりを持って診療できるよう、担当患者数の調整をしています。採用時のオリエンテーションや勉強会（院内・科内・チーム別）が充実しており、学会発表など学術面に対するサポートも積極的に行っています。

学術活動

院内取り組み発表会での口述発表や広島県作業療法士会・国立病院総合医学会での研究発表に向けて取り組んでいます。リハビリテーション科の「教育・学術部」が機能しており、新採用者へのオリエンテーション、学会発表のサポートなど職員のスキルアップを応援します。

過去の発表実績：令和4年度 2件

他部門との連携

各診療科ごとに医師・看護師・MSW・薬剤師・栄養などと多職種カンファレンスが週1回開催されています。

退院前にはカンファレンスや、在宅診療スタッフへの情報交換なども必要に応じて行われ、病院から在宅へスムーズに移行できるよう連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院は高度急性期医療を担っており、幅広い疾患に対応すべく作業療法士もジェネラリストの役割が求められています。そこで作業療法部門もチーム制を導入し、半年～1年毎にローテーションを行い、知識やスキルの循環をはかり、研究、学会発表、資格取得等で専門性を高め合っています。それができるのもベテラン、中堅、若手がバランスよく配置されているためであり、当院の強みです。

また新人の方には1年間を通して教育プログラムが組まれており、プリセプターが全面的にサポートする体制があることも魅力だと思います。



対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士13名 作業療法士9名 言語聴覚士2名

当院の特徴

広島県東部医療圏の中核病院として、岡山県西部地域の医療をも担っています。「苦痛のない医療」を実践すべく、内視鏡や腹腔鏡を駆使した検査処置や手術を行っています。また、緩和ケアチームをはじめとして、各職種の強みを発揮してチーム医療を促進しています。さらに治療方法の開発など臨床研究や治験を行っています。

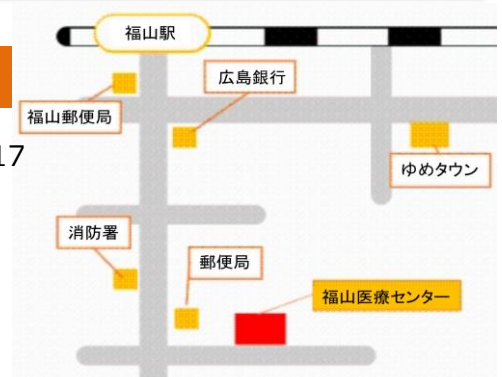
職場責任者からのメッセージ



理学療法士長の平野です。福山医療センターは急性期病院らしく、スタッフが患者さんのために日々奮闘しています。そのため忙しく感じるかもしれませんが、とても充実感が得られる職場だと思います。また現在は疾患に対してチーム制を敷いており、PT・OT・ST部門がチーム内でサポートしあったり、目標や課題を共有できているのも福山医療センターリハビリテーション科の特徴です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒720-8520 広島県福山市沖野上町4丁目14-17
 電話番号（代表）：084-922-0001
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://fukuyama.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の作業療法は、整形外科（人工関節、脊椎疾患、上肢疾患、骨折等）、がん（周術期から終末期）、小児等の様々な疾患を対象としています。365日リハビリテーション体制を構築し、患者さんの早期離床及び早期ADL再獲得に寄与しています。

上肢外傷や腱板断裂の術後は、外来でも作業療法を継続しています。必要に応じ自助具も作成して生活復権に向けた支援をしています。

このように、当院の作業療法は急性期から在宅まで幅広くサポートしており、様々な分野の経験を積むことができます。



教育体制

当院独自の新人教育マニュアルに基づいて、指導者等を配置し新人さんの能力に応じた段階的指導を行っています。当面は整形外科での人工関節等の作業療法を集中的に学んでもらい診療経験を積んでもらいます。慣れるまでは、指導者だけでなく先輩らがサポートしてくれるので安心してください。

また、OTスタッフには3学会合同呼吸療法認定士やがんのリハビリテーション研修修了者、医療リンパドレナージセラピストなど様々な資格取得者がいるため、幅広い指導を受けることもできます。

学術活動

当院には、文献検索や文献の取り寄せができ、統計ソフトも保有しているため、研究や学会発表がしやすい環境です。先輩から発表等の指導を受けることもできます。

他部門との連携

褥瘡委員会や緩和ケア委員会、認知症ケアチームなどに作業療法士が所属し、専門性を活かして他部門と連携を図っています。

また病棟カンファレンスにも積極的に参加して、患者さんのリハビリテーションを多職種協同ですずめることで効果を最大限に高めています。

先輩からのメッセージ

入職当初は不安もありましたが、教育プログラムが充実しており、先輩方が業務や疾患についてしっかりとご指導して下さるため、安心して業務に取り組んでいます。

また、先輩は相談や実技練習など快く対応して下さいます。年次有給休暇制度は利用しやすく、とても働きやすい環境です。ぜひ一度見学に来てみてください！（入職2年目）





広島西医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士14名

作業療法士8名

言語聴覚士4名

当院の特徴

急性期病床と筋ジストロフィーやALSをはじめとする神経・筋疾患、重症心身障がい児（者）の療養病棟を兼ね備えた“ケアミックス型”の病院です。複数の異なった領域のリハビリテーションを経験できます。発達障がいの外来も行っています。

職場責任者からのメッセージ



神経・筋疾患への対応は学校で教わらないことも多く、勉強の毎日です。急性期リハビリテーションも含め、患者さんひとりひとりとしっかり向き合い、相手のニーズに応えられるようコツコツと努力する。。。そんなスタッフが多いです。「患者さんとともに」これからも、成長しつづけるリハビリテーション科を目指しています！

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号
 電話番号（代表）：0827-57-7151
 リハビリテーション科 廣川・長谷（職場長）まで
<https://hiroshimanishi.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

整形外科疾患：上肢疾患の中でも、肩腱板断裂術後の後療法（人工関節を含む）が主な対象となっています。

神経筋疾患：筋ジストロフィーやALS患者さんを対象とした意思伝達装置・操作スイッチの導入、パーキンソン病患者さんへのOT介入を多く行っています。

重症心身障害等の発達障害：遊びを通じた発達支援など

血液がん：血液腫瘍患者さんのADLや手指・認知機能維持改善プログラム

各領域で専門性の高い作業療法を展開しています！



教育体制

新人に対しては、当科新人教育プログラムを用いてプリセプターを中心に指導を行います。また、肩腱板損傷の評価・介入や神経・筋疾患患者さんが用いるスイッチ、発達障害児へのかかり方などをテーマに初歩からの勉強会を行っています。実際の臨床現場でもスタッフみんなが情報を共有し、一緒に考えながら取り組んでいるため、困ったことがあれば相談しやすい環境です。毎月2回、科内勉強会、症例検討会を行っています。

学術活動

学会発表：令和4年度 2件

その他：研修会講演（血液がん治療における多職種連携）

他部門との連携

各診療科において、定期的に多職種（医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど）カンファレンスを行い、情報の交換、共有を行っています。

また、在宅に関わるスタッフの方にリハビリテーション見学をして頂いたり、文書による情報提供を行うなどの地域連携も行っています。

先輩からのメッセージ

入職当初は分からないことが多く不安な面もありましたが、その都度先輩方が親身になって指導してくれます。そのお陰で楽しく充実した毎日です。また、多職種とコミュニケーションを取る機会が多く、さらに深いところを知ることができ、アプローチの広がりややりがいを強く感じています！



対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士10名

作業療法士6名

言語聴覚士2名

当院の特徴

広島中央医療圏の急性期中核病院として、科学的根拠に基づいた安心・安全な医療を提供します。政策医療であるがん、循環器病、呼吸器疾患、内分泌・代謝性疾患の専門医療施設として位置づけられ、これらの診療機能を果たすべく専門的な医療の提供はもちろんのこと、ナショナルセンター等との連携の下に臨床研究、教育研修、情報発信を積極的に行っています。

職場責任者からのメッセージ



当院では、入院患者さんの急性期（手術前後、発症直後）からリハビリテーションを実施しています。各科から処方される全ての疾患に対応しています。脳神経外科と脳神経内科がありますので神経難病も含めた脳血管疾患の患者さんが特に多いです。急性期ということもあり特に早期離床・早期回復を目指しており、在宅復帰あるいは回復期病院転院まで基本動作能力訓練や環境調整等を行います。また土日祝日であっても当日処方に対応できる診療体制を取っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0041 広島県東広島市西条町寺家513

電話番号（代表）：082-423-2176

リハビリテーション科（原田）まで

<https://higashihiroshima.hosp.go.jp/>

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院作業療法部門は、脳血管疾患・運動器疾患の急性期を中心として、呼吸・循環器、がん患者さんなど幅広い疾患の患者さんを対象として診療を行っています。

平均在院日数は2週間弱と短いですが、その中で在宅復帰あるいは回復期病院転院まで日常生活動作練習や機能訓練、高次機能訓練や環境調整等に関わっています。

整形外科領域では術後の後療法やスポーツ障害の上肢（肩／肘）に関わることが多く、専門医の指導のもと急性期のリハビリテーションに取り組んでいます。



教育体制

新人教育ではプリセプター制度を基本にしながら、運動器・脳血管などを数ヶ月毎にローテーションします。短期間に同じ疾患をもつ多くの患者さんに触れる機会を設け、評価や訓練の方法を身につけていくことが目的です。人数が比較的少ないこともありアットホームな雰囲気の中で、スタッフ全員で問題解決やスキルアップを目指します。整形外科医師によるハンドセラピー講義や作業療法部門内のそれぞれの特性を生かした勉強会を定期的に（それぞれ月に1回程度）開催しています。

学術活動

県士会や国立病院総合医学会での発表を目標に科内勉強会の場を利用した発表の練習などを行っています。現在はコロナ禍にて休止されていますが、地域における急性期病院としての発信も積極的に行っています。

他部門との連携

入院から退院までの間、定期的に他職種とのカンファレンス(医師、看護師、MSWなどが参加)が行われています。また、医師をはじめとした他職種との距離が比較的近いため、カンファレンス時に限らずさまざまな相談がしやすい環境です。

先輩からのメッセージ

当院では脳血管疾患、運動器をはじめとした様々な疾患を対象に発症初期からリハビリテーションを行っています。患者さんの回復の過程などを肌で感じることができ、とてもやりがいのある職場だと感じています。

業務では、リハビリテーションスタッフ間はもちろん、病棟看護師さんや医師ともしっかりと連携がとりやすい環境が整っており、相談事もしやすいのではないかと思います。





賀茂精神医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリセンターホール



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 2名

作業療法士 9名

言語聴覚士 0名

当院の特徴

当院は中国四国グループ最大規模の精神科病院で、「急性期」「回復期」「退院支援」「認知症」「重症心身障害」「医療観察法」の病棟機能を持っています。『共に生きる』という病院理念のもと、多職種協働チームでの医療の実践に力を入れています。

職場責任者からのメッセージ



リハビリテーション科では毎年テーマを掲げています。今年度はスタッフごとに「発信」「発表」「発見」など「発」のつく言葉をテーマにし目的意識高く業務に取り組んでいます。当科は社会人基礎力の成長、専門職としての必要な知識や技術の習得を積極的にサポートしています。また休暇取得も推進しており、プライベートを充実させながら働き続けられることも魅力の一つです。

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-2621 広島県東広島市黒瀬町南方92番地
 電話番号（代表）：0823-82-3000
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://kamo.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

精神科作業療法と精神科デイケア・ショートケアの施設認可を受けており、入院・外来患者さんを対象に多彩な活動を実践しています。リハビリテーションセンターでの活動を核とし、病棟の特色に応じた病棟OTや患者さんの状況に応じた個別OTも行っています。

特徴的な活動の1つとして「リハパラ」という愛称の活動がありますが、リハビリテーションセンター全体を使用し同時並行的に複数の活動を展開しており、患者さん自身が自分で作業を選択したり自分で決定するというプロセスを大切にしながら活動を提供しています。



教育体制

日々の活動は先輩作業療法士と一緒に運営し、クリニカルクラークシップやOSCEなどを考慮してアドバイスを受けながら実践経験を積みます。その他、週2回程度の部門勉強会やWEB勉強会によるNHO精神医学講義なども利用できます。

学術活動

学会発表：1件（眠りスキャンを利用した睡眠評価の作業療法への適応）

他部門との連携

医師・看護師・コメディカル（リハビリテーション・PSW・CP）などが集まり、定期カンファレンスや個別カンファレンスを開催しています。

また退院に向けて、支援者を含めたケア会議など院外の方々との連携も積極的に行われています。

先輩からのメッセージ

入社して2年目になります。1年目に担当した病棟は長期入院の患者さんが多く、どのように関わって良いか、どんな目標設定をしたら良いか苦戦していましたが、先輩スタッフに相談したり、勉強会やメンター制度を通じて多くのアドバイスをいただくことで、少しずつですが広い視野をもって患者さんを捉えることができるようになってきました。みなさんも成長できる職場で一緒に働いてみませんか？





関門医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数※

理学療法士17名

作業療法士12名

言語聴覚士2名

※育休等：3名を含みます。

当院の特徴

当院は山口県西端に位置し、下関市から県北西部を医療圏とする救急指定病院です。また、病床数は救命救急センター（12床）・ICU（4床）・急性期一般（267床）・地域包括ケア病棟（96床）を有し、救命医療から在宅復帰までの医療サービスを提供しています。

職場責任者からのメッセージ



当科では多職種連携によるチーム医療を推進しています。また、働きやすい職場環境の構築とともに、臨床と教育に力を入れております。若手の職員が多いため、教育部会・研修部会のもとで組織的な人材育成を図っています。また、育休や介護休暇等の制度を利用しやすいよう互いにフォローし合いながら、安心して長く働ける職場を目指しております。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1-1
 電話番号（代表）：083-241-1199
 リハビリテーション科（職場長） 安川（やすかわ）まで
<https://kanmon.hosp.go.jp/>



関門医療センター

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の作業療法は、脳神経疾患・整形疾患を中心に介入しており、脳梗塞後の上肢機能改善や高次脳機能障害の評価・改善を、整形疾患では上肢の骨折やハンドセラピー・腱板損傷への介入を、神経難病患者に対してはコミュニケーション支援を、また、内部疾患により循環器・呼吸器疾患のある方への運動療法や動作指導等を行っています。

その他がんの方や重症心身障害者へのリハビリテーションも対象としており、幅広い分野のリハビリテーションを行っています。



教育体制

新人教育では、新人スタッフ1名につき、指導者を1名配置しています。加えて、新人教育グループを設立しており、リハビリテーションスタッフ全体で情報の共有を行い、指導・助言を行います。この体制は1年間継続し、この間はできるだけ1人の患者様をゆっくり診療できるように配慮しています。

勉強会は分野別に担当を決めて、定期的に行っており、幅広い分野の勉強が行えます。

学術活動

日本作業療法学会や県学会、各種関連学会に複数エントリーして毎年学術発表を行っています。また、がんのリハビリテーション研修修了者や3学会合同呼吸療法認定士も複数名在籍しており、資格取得に関する支援も行っています。

他部門との連携

診療科ごとに、多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）と毎週カンファレンスが行われます。また、必要に応じてDr、Ns、MSWと随時連絡を取り情報交換を行っています。

先輩からのメッセージ

急性期の脳出血や脳梗塞などの脳血管障害や、整形疾患、がんや内部障害を担当しています。また、神経難病の方に対してもコミュニケーション支援を検討するなど、患者様の生活の質の向上を目指す取り組みを行っています。急性期では、1日1日で病態も変動しやすく、様々な疾患の特性と併せて個々のリスク管理も必須となりますが、患者様の回復する過程と一緒に確認しサポートできるのは、大変やりがいのある仕事です。また、突然の病気や怪我で精神的にも落ち込みや悲観的になる方々に対して、作業療法で学んだ作業活動や個人に特化した支援を考えることができ、幅広く経験を積むことができる環境となっています。

国立病院機構中国四国グループで一緒にスキルアップしましょう！



山口宇部医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士5名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は「がん」「呼吸器」「重心」を診療の3本柱として掲げています。

がん・呼吸器疾患の専門病院として高度で専門的な医療と提供しています。また重症心身障害児者の専門施設としてきめ細やかな医療と療育を提供しています。中国四国グループの中では特化した診療を行う数少ない施設のひとつです。

職場責任者からのメッセージ



当院は呼吸器・がん・重心に特化した施設ですので、それぞれを深く勉強するにはとても適した環境だと思います。関わりが長期にわたる患者さんもいますので、リハビリテーションスタッフ間でこまめにコミュニケーションを取りながら関わっており、先輩後輩間でも相談しやすい雰囲気があります。興味のある方はぜひご一報を！

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒755-0241 山口県宇部市東岐波685番地

電話番号（代表）：0836-58-2300

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://yamaguchiube.hosp.go.jp/>

作業療法部門

勤務形態

土日祝休み 休日出勤 365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では重症心身障害児者（脳性麻痺・脳症後遺症・溺水など）・呼吸器疾患（COPD・間質性肺炎・肺がんなど）・がん（主に肺がん）・緩和ケア（がんなど）を対象としたリハビリテーションを中心に取り組んでいます。

重症心身障害では呼吸器を装着した症例や超重症例が多いのが特徴です。そのため、関節を動かしたり、姿勢を整えるなどして全身の変形を予防したり、快適な日常生活を送ることができるように介入しています。

一般病棟では上肢や高次脳機能障害に対するリハビリテーション、ADL訓練等を行っています。



教育体制

新人教育では、担当の指導者を配置してOT部門全体で指導・助言を行っています。新人スタッフが慣れるまで患者さんをゆっくり診療できるような体制となっています。また、科内の勉強会や、院内の勉強会も開催しています。

学術活動

院内での研修会や医療安全の取り組みについての発表を行っています。国立病院総合医学会の発表など学会発表にも取り組んでいます。

他部門との連携

P T・S Tの他リハビリテーション職種とも情報交換を行い、協力して患者さんのリハビリテーションに取り組んでいます。また、入院から退院までの間に定期的に多職種（医師・看護師・ソーシャルワーカーなど）でカンファレンスを行い、患者さんが安心して退院・転院できるよう調整を行っています。重症心身障害児病棟では、よりよい入院生活を送れるよう、多職種で目標を設定、共有し、個別カンファレンスを行っています。また、病棟と協力して日常生活のポジショニングを検討しています。

部署を超えて嚥下や骨折予防等についての勉強会を開催し、知識・技術の向上に努めています。

先輩からのメッセージ

重症心身障害児や緩和ケア、呼吸器などすべての病棟の患者さんを担当します。キャリアとしてはやや特殊な職場ですが、興味がある方は、ぜひ一緒に勉強していきましょう。がんや脳性麻痺など特定の疾患と深く関わっていける職場だと思います。

海が見える桜の綺麗な病院です。ぜひ一度お越しください。
(入職7年目)





岩国医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士8名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は岩国市を中心に広島県・島根県の一部まで幅広くカバーし、半径40km・約40万人の医療圏において唯一の救命救急センター、2・3次救急医療および災害医療の要として機能しています。職員は地域の皆さまに信頼される病院であるとの自負心をもって働いています。高台にあるため、晴れた日は素晴らしい瀬戸内海の景色が見えるのも自慢です。

職場責任者からのメッセージ



地域における中核病院として幅広い疾患を診療することができます。伝統的に院内でのリハビリテーション科への信頼が厚く専門職としての力を発揮できます。離職者が少ないため安定した年齢構成で子育て中の職員も多く、男性職員の育児休暇取得などワークライフバランスにも早くから配慮を重ねてきました。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒740-8510 山口県岩国市愛宕町1丁目1-1

電話番号（代表）：0827-34-1000

リハビリテーション科（理学療法士長・作業療法士長）まで

<https://iwakuni.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の作業療法部門は脳血管疾患を中心に、運動器、呼吸器、がんと多岐にわたる領域に対応しています。急性期では、発症直後からベッドサイドでリハビリテーションを開始し、早期離床および早期ADL再獲得を目指しています。また、NICU(新生児集中治療室)でのリハビリテーションや、小児外来リハビリテーションを行っているのが特色です。小児外来では発達障害を中心に遊びを通じた診療を行います。他職種との連携もスムーズで、患者さんを中心とした診療を実践しています。



教育体制

当科の新人教育プログラムにそって実施し、新人1人に対して指導者を1人配置しています。もちろん指導者だけでなく他の先輩セラピストにも相談しやすいように心がけています。入職後は興味のある分野を中心に、各新人のペースに合わせて診療できるような体制となっています。「自分で考え解決策を出せるOT」として育ていけるように支援します。科内の勉強会は年間計画に沿ってPT・STと合同で開催し、幅広い視野・スキルを習得することができます。

学術活動

「岩国こどものこころ勉強会」を月1回開催 岩国市内の病院・療育センター・児童相談所および学校関係者、教育委員会など多職種で事例検討会実施。当院のOT部門からも毎年事例報告・事例紹介を行っています。各種研修会への参加、各専門領域の学会・山口県作業療法士会・日本作業療法士協会等の学会発表への支援も充実しています。

他部門との連携

各科のカンファレンスやラウンドに積極的に参加しています。作業療法士は生活支援の専門職として、他職種からADLの工夫や介助方法について尋ねられたり、医師から患者さんの退院後の生活について意見を求められることもしばしばです。他職種と連携しながら、OTとしての専門性を活かして仕事のできる職場です。

先輩からのメッセージ

当院のOTは脳卒中や上肢骨折、発達障害など幅広い疾患に携わることが出来ます。急性期という短い介入期間ですが、多職種と協力しながら、先輩OTのアドバイスを頂きながら経験を積むことができます。新採用者や転勤者に対しても職場が一丸となってサポートしているため、とても働きやすい職場です。





対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 6名

作業療法士 6名

言語聴覚士 2名

当院の特徴

神経難病患者（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発硬化症等）重度心身障害児（者）の専門的医療施設で、山口県全域、広島県西部地区の中核病院として障害者医療をおこなっています。一般外科はもとより、肛門疾患、直腸、大腸癌の専門的外科治療及びストーマリハビリテーションの専門医療の確立に努めています。入院人工透析をおこなっています。

職場責任者からのメッセージ



当院は国立病院機構の中でも数少ない人工透析患者に対する積極的な医療およびリハビリテーションを実施しております。また、病院の眼下には瀬戸内海の多島美の絶景を望むことが出来、素晴らしい環境の職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95

電話番号（代表）：0820-27-0211

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://yanai.hosp.go.jp/>

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院ではパーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症などの神経難病の患者さんのリハビリテーションを主として行っており、作業療法ではコミュニケーション支援（スイッチでの意思伝達装置操作など）にも積極的に関わっております。

近年は脳卒中急性期や整形外科など、急性期から慢性期まで幅広い疾患のリハビリテーションを行っており、さらには外科手術後、重症心身障害児）、人工透析の患者さんのリハビリテーションにも力を入れています。



教育体制

新人育成では病棟担当制（チーム制）を導入し、経験のある職員が新人職員へマンツーマンで指導・助言を行い、新人教育プログラムも用いて評価・診療出来るよう計画しております。また、リハビリテーションの技術のみならず、一社会人としての一般常識やコミュニケーション能力の向上も目指しております。作業療法部門では、毎月ミーティングを開催しており、活発な情報交換も行っております。

学術活動

講演：令和4年度 神経・筋疾患研修会

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。在宅に関わる職種の方と退院前カンファレンスや退院前訪問などを行い、病院から在宅へスムーズに移行できるよう連携を図っています。

先輩からのメッセージ

柳井医療センターに入職して7年目になりました。諸先輩方のご指導のもとコツコツと臨床の技術を学んできて、じっくりと目の前の患者様と向き合うことができ、その患者様の希望や治療目標に応えられることを実感してきています。また、この仕事を長く続けていくにあたり、リハビリテーションの初めの一步を学ぶには、とても良い環境なのではないかと思えます。ご一緒に国立病院機構中国四国グループで患者様のために働いてみませんか？入職を心よりお待ちしております。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 5名

作業療法士 3名

言語聴覚士 1名

当院の特徴

徳島県東部を診療圏として、政策医療である結核・重心病棟の他、一般病棟（地域包括ケア病棟含む）を有し「やさしい笑顔とよりそう医療」を病院の理念として、地域に貢献する医療を実践しています。

職場責任者からのメッセージ



当院リハビリテーション科では、病院の理念の「やさしい笑顔とよりそう医療」に基づいて、患者さん個々に合わせたリハビリテーションを提供しています。他部門や他職種ともコミュニケーションを取りやすく、患者さんの気持ちや目標に、どう寄り添って行っていくか、連携しながら取り組んでいます。

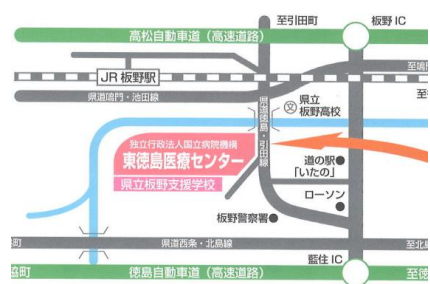
アクセス お問い合わせ先

所在地：〒779-0105 徳島県板野郡板野町大寺大向北
1-1

電話番号（代表）：088-672-1171

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://higashitokushima.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では重度心身障害（脳性麻痺・てんかん精神発達遅滞等）、呼吸器疾患（肺結核・COPD・間質性肺炎・肺がん等）、運動器疾患（骨折・靭帯損傷・腰部脊柱管狭窄症等）、脳血管障害（頸髄症・脳梗塞・認知症等）を対象としたリハビリテーションを行っています。

特に地域包括ケア病棟に入院されている患者さんに対しては自宅退院を目指したADL訓練を中心に実施しています。



教育体制

新人に対しては当科の新人教育プログラムに沿って、プリセプターを中心とした指導を行います。

入職時には院内の全体研修や、定期的に研修・講習に参加できる体制があります。

学術活動

- ◇徳島県作業療法士会や国立病院総合医学会等の学会への参加、発表を推進しています。
- ◇院内での委員会活動や研修で講師として協力しています。
- ◇リハビリテーション科内では月1回の頻度で勉強会や症例報告等を実施しています。

他部門との連携

結核病棟、地域包括ケア病棟、重心病棟の各病棟で定期的に多職種カンファレンスを実施しています。

在宅への退院前には、必要に応じて退院後に関わるスタッフやご家族と退院前カンファレンスや退院前訪問を行っています。

先輩からのメッセージ

作業療法士になり12年目になります。作業療法を通じて重心病棟の患者さんや地域包括ケア病棟の患者さんの純粋な笑顔を見ているととても楽しいです。地域包括ケアのリハビリテーションでは在宅生活が可能となるように家屋評価やADL・IADL動作練習を実施し、早期退院を目指すように心がけています。カンファレンス等も多く他部署との連携ができとても勉強になります。また、研修等も多く参加させて頂き自分自身のステップアップになります。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士10名

作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

政策医療である神経筋疾患に対する医療を主に提供しています。県内にとどまらず、他県からの紹介も多く、医師と看護師、コメディカル部門との連携も充実しており、質の高い医療サービスが実現できるような体制です。古くからスポーツ医療も盛んで県内の中高生が多く来院し、リハビリテーションを実施しています。また、ロボットリハビリテーションにも取り組んでおり、10年近い実績があります。

職場責任者からのメッセージ



リハビリテーション科のモットーは「常に患者さんの病態を把握できるように日頃から資質の向上に努める。常に患者さんに寄り添ったリハビリテーションになるよう心掛ける。」としています。当院では慢性進行性に病態が変化する神経筋疾患の患者さんが多く、なかには精神的に疲弊している患者さんもおられます。高度で質の高いリハビリテーションを提供するにあたって、自らのスキルを向上させることはもちろんのこと、誠心誠意、患者さんに寄り添って医療にあたることが重要と考えています。「治療してあげているのではなく、させていただいている」。治療を通して患者さんから学ぶことも多く、注意深く観察することで成長していくことができると思います。お互いに志を高く持って働きましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒756-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地
徳島県吉野川市鴨島町敷地1354番地
電話番号（代表）：0883-24-2161
リハビリテーション科（職場長）まで
<https://tokushima.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

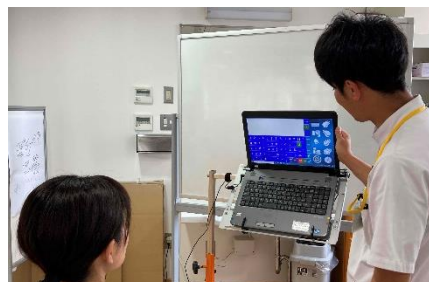
早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門の主な対象患者さんは筋ジストロフィー、パーキンソン病関連疾患、筋萎縮性側索硬化症などの神経筋疾患が主となります。作業療法では機能訓練やADLトレーニングのほか、意志伝達装置の導入や特殊スイッチの紹介・調整、自助具や生活環境の調整などを他職種と連携しながらすすめています。

また、パーキンソン病関連疾患の短期集中リハビリテーションやボトックス治療と併用してパワーアシストハンドなどのロボットリハビリテーションを行っていることも当院の作業療法部門の特徴です。



教育体制

リハビリテーション科内での勉強会や院内研修も定期的実施しています。作業療法士は4名と少人数であり、部内全体で援助をします。意志伝達装置や特殊スイッチなどの機材が整っており、勉強しやすい環境です。

認定作業療法士、呼吸療法認定士など現場で必要となる関連資格の取得者も在籍しており、取得に向けたサポートも行えます。

学術活動

近年は国立病院総合医学会などの学会で発表を行っています。

他部門との連携

定期的なカンファレンスや入院中・退院前の環境調整（意志伝達装置やスイッチ、家屋環境など）を多職種（医師・看護師・ソーシャルワーカー、臨床心理士など）と連携しながら行っています。

スタッフルームやリハビリテーション室は理学療法士・言語聴覚療法士と共有しており、いつでもコミュニケーションが取りやすい環境です。

先輩からのメッセージ

意思伝達装置やスイッチの調整など、患者さんの限られた能力をどう活用すれば何が出来るのかを考え、実現することが作業療法の魅力の一つだと思います。

徳島病院は知識・技術はもとより、自分のアイディアを伸ばし、活かすことができるやりがいのある職場です。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士3名

言語聴覚士2名

当院の特徴

地域を支える病院として、①香川県の難病医療支援ネットワークにおける神経筋疾患分野の拠点病院としての難病医療、②結核を含む呼吸器疾患に関する専門医療、③高齢者や障害者にも優しい一般医療の3つの機能を柱として診療にあたっています。

職場責任者からのメッセージ



当院は神経難病や呼吸器疾患の患者さんを中心とした維持期リハビリテーションや、急性期病院から転院してこられた患者さんに対して、患者さんの目線で自宅退院を想定したリハビリテーションを展開しています。スタッフのチームワークは抜群に良く、コミュニケーションを大事にしながら患者さんに寄り添うリハビリテーションを提供しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒761-0193 香川県高松市新田町乙8

電話番号（代表）：087-841-2146

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://takamatsu.hosp.go.jp>

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では、主にALSをはじめとする神経筋難病（筋ジストロフィー、パーキンソン病、多系統萎縮症等）を対象としたリハビリテーション（環境調整、ADL訓練、特殊スイッチや意思伝達装置等のコミュニケーション手段の支援等）を行っています。また、整形疾患や脳血管障害に対しては、手の機能回復訓練や日常生活動作訓練を実施しています。

対象患者さんとかかわる病期は、発症直後・進行期・維持期と様々で、長期療養だけでなく、短期入院による在宅生活へのサポートも多職種と連携しながらすすめています。



学術活動

学会発表：令和4年度 なし

香川県の神経筋難病の拠点病院の1つとして、神経筋難病患者様や地域からの意思伝達装置や自助具に関する電話相談に応じたり、保健所からの在宅生活調整のための自宅訪問の依頼等に随時対応しています。

他部門との連携

入院から退院までの間に院内の関係職種（医師・看護師・地域連携室）とカンファレンスを定期的に行っています。

退院前カンファレンスや退院前訪問等を行い、病院から在宅へスムーズに移行できるよう地域スタッフとも連携を図っています。

先輩からのメッセージ

リハビリテーションスタッフは皆優しく、相談しやすい雰囲気です。

担当患者さんのほとんどが神経筋難病の方ですが、その方の身体機能や希望を大切にしながら、環境設定を工夫したり、意思伝達装置の支援などを病棟スタッフの方と一緒に取り組んでいます。





対象病期

急性期	回復期	慢性期	維持期
-----	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士16名

作業療法士6名

言語聴覚士5名

当院の特徴

当院の特徴は成育医療、成人医療、重心療養の3医療を担っている施設であることです。リハビリテーション科では小児から成人まで多種の疾患に対応したきめ細やかな理学療法、作業療法、言語療法を365日実施しています。

職場責任者からのメッセージ



成人、小児、重心の多種、多様な疾患へ対応するスキルが求められますが、現有スタッフと楽しく、時に厳しく学び、仕事ができる職場です。一緒に目の前にいる患者に寄り添えるセラピストを目指しましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1

電話番号（代表）：0877-62-1000

リハビリテーション科（職場長）まで

https://shikoku-mc.hosp.jp

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の作業療法では、「こころとからだのリハビリテーション」をテーマに、こどもからおとなまでを対象に幅広い疾患の治療・訓練に携わっております。

急性期 脳卒中や外傷では、ERやICUなどの早期介入を図っており、とてもやりがいのある現場です。

また、小児の発達障害では、入院・外来問わず家族サポートを含めた指導・治療を行っております。

幅広い領域を経験できることが特徴です。



教育体制

新人1年目の方には、プリセプターとメンターを配置し、マンツーマンでの指導およびメンタルサポートをしています。科内勉強会やOT勉強会を通して、気軽に相談・質問できる場を設けております。職員全体で丁寧で分かりやすい指導を心がけており、学会発表に向けての指導も行っています。テーマの決定・抄録作成・発表練習など、細やかに指導しています。

学術活動

地域医療研修会として定期的に学習会を開催しています。

他部門との連携

成人部門では、各科ごとに週1回のお他職種カンファレンスを開催し、情報共有を図っています。在宅復帰患者に対しては、退院前カンファレンスを開催し、退院後も安全に生活して頂けるよう支援しています。

成育部門では、発育・発達に応じた介入を心がけ、主治医・看護師との合同カンファレンスを実施しています。

先輩からのメッセージ

わっと目を引く外観とあたたかな雰囲気のあるここ「四国こどもとおとなの医療センター」は、その名の通り、子供から高齢者まで幅広い方々を対象にリハビリテーションを実施しています。

また、小児から運動器、脳外科などと領域も広く、退院後の外来リハビリテーションまで密にかかわることができます。それぞれの領域に精通された先輩セラピストの方々が丁寧に教えてくださるため、作業療法士としての専門性を向上させるためにも充実した病院です。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

当園外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 2名

作業療法士 1名

言語聴覚士 1名

当園の特徴

当園はハンセン病の基本治療を既に終了した方に、ハンセン病の後遺症治療と一般疾患治療を提供しています。後遺症治療は皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・外科・整形外科等の診療科で治療が行われ、一般治療では内科・心療内科・泌尿器科等で、悪性腫瘍・脳血管障害・心臓病・高血圧症・生活習慣病・認知症等入所者の高齢化に伴う医療内容が大きな比重を占めています。

職場責任者からのメッセージ



私たちは、当園の特徴や部門紹介でもあるように生活期の入所者の方を対象にリハビリテーションを提供しています。スタッフ数は少数のため忌憚なく意見交換ができ主体的に業務に取り組めると思います。また、休暇取得・福利厚生も充実しているのでワークライフバランスを保ちながら継続して仕事に取り組むことが可能です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒764-0198 香川県高松市庵治町6034-1

電話番号（代表）：087-871-3131

リハビリテーション科（職場長）まで

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/osima/index.html

アクセス：当施設は大島という島内にあり、詳細は上記の施設ホームページで確認していただければ幸いです。

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当園の理念

「私たちは、入所者の尊厳を守り、入所者の心情を理解し、入所者が安心して生活できる環境を提供します。」

作業療法部門は筋力や可動域の維持から日常生活動作の獲得、認知機能の維持改善、レクリエーションによる運動推進など幅広く介入しています。

入所者皆さんの平均年齢は約86.4歳です（令和5年4月）。リハビリテーションの対象者はハンセン病後遺症と高齢疾患の重複障害者であり、多職種間の連携が必要です。急性期の施設と違い、最期まで関わられるのが特徴です。

リハビリテーション室



教育体制

各種委員会チーム会主催の講演、部署内での勉強会、レクリエーションへの参加などを行っております。また園内の研修については、可能な限り参加できる環境を整えています。

学術活動

学会発表：令和4年度 1件

他部門との連携

必要時に他職種（医師・看護師・介護員・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。

先輩からのメッセージ

療法士だけでなく、主治医や看護師、介護士など職員一丸となり、入所者の皆様へより良い環境を提供できるように日々努力を重ねています。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士1名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、2019年にはがんゲノム医療拠点病院に指定されました。また緩和ケア病棟が併設されており、がん患者さんの急性期から緩和期まで医療体制が整備されています。

職場責任者からのメッセージ



当院は主に「がんのリハビリテーション」を実施しています。周術期・進行期から緩和期までがん医療におけるリハビリテーションの役割を担っています。療法士はもちろん医師・看護師も「がんのリハビリテーション研修」を受講できる体制が整備されています。また、当院は研修を主催する立場にあり、研修会で講師やファシリテーターを努めています。診療業務に加えて研究活動にも力を入れており、文献抄読会や関連学会での発表、論文執筆などを積極的に行っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒791-0280 愛媛県松山市南梅本甲160

電話番号（代表）：089-999-1111

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://shikoku-cc.hosp.go.jp/>


作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は、四国地方の「がん」に関する中心的施設として、ナショナルセンターとの連携の下に、高度で専門的な医療、臨床研究、教育研修及び情報発信の機能を備えた施設として整備されています。

リハビリテーション部門では、臨床研究、解析、臨床へのフィードバックを行うことで、より多くのがんの患者さんのQOL向上に寄与すべく、日々臨床を続けております。

作業療法部門で対応している疾患は、乳がん、頭頸部癌、骨転移、脳転移、がんの転移による末梢神経疾患、リンパ浮腫など多岐に及びます。



教育体制

新入職時の院内新人教育研修、がんのリハビリテーション研修会への参加、週1回の骨軟部腫瘍・整形外科、リハビリテーション科主催の論文抄読会、その他随時、院内勉強会が開催されています。

学術活動

「乳がん術後患者の身体活動、QOLなどについての実態調査」、「AMED乳がん術後の外来リハビリテーションに関するランダム化比較試験」などの研究活動や、がんのリハビリテーションに関する研修会講師などを実施しています。

その他、リハビリテーション科として「がんのリハビリテーション研修会」を主催しています。

他部門との連携

毎日実施しているリハビリテーション科医師、看護師、リハビリテーションスタッフによる多職種カンファレンス、週に1回、乳腺外科医師、看護師、作業療法士でおこなう乳腺外科病棟回診を実施。リハビリテーション介入前、介入中の方の状態把握、未介入の方においてのリハビリテーションの必要性の有無などを検討しています。

先輩からのメッセージ

がんに罹患すると、がんの浸潤によって体力が消耗しやすい状態になります。そこに侵襲性の高い治療をすることで、容易にADLやQOLの低下をきたします。

当院のがんのリハビリテーションは、エビデンスをもとに、より効果的な介入を図り、その人らしい生き方を過ごすお手伝いをすることを目指しております。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士8名

作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当医療センターは政策医療と地域医療を2本柱としています。政策医療では結核、重症心身障害、神経難病の専門医療施設として広く県内から患者さんを受け入れています。またポストNICU病床を設け、障害を持った小児医療にも取り組んでいます。地域医療としては東温市と周辺地域の一般急性期医療に加え、循環器・呼吸器・神経・運動器疾患のリハビリテーションや生活習慣病対策に貢献しています。平成28年4月からは松山医療圏の2次救急輪番病院として救急医療の一端を担っています。

職場責任者からのメッセージ

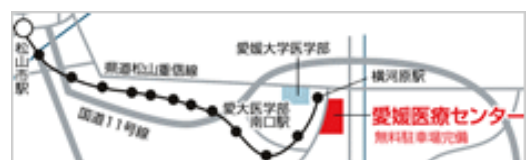


当科のリハビリテーション対象疾患は、運動器・脳血管・呼吸・循環・障害児者など多岐に亘っており、幅広い知識と技術が必要とされます。そのため技術の研鑽だけでなく、学会発表や各領域の勉強会・研修会参加等の学術活動、各資格取得などを奨励しています。また新人教育は、比較的年齢に近いスタッフをプリセプターとしていますが、他のスタッフも教育に携わっており、無理なく臨床に慣れてもらうようにプログラムしています。

当科では、気軽に会話をして、何でも相談しやすい職場作りを目指しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒791-0281 愛媛県東温市横河原366
 電話番号（代表）：089-964-2411
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://ehime.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり 遅出あり

部門紹介

作業療法部門では、一般病棟にて神経難病や上肢の傷病、呼吸器・心疾患等のさまざまな疾病に対して、機能訓練や生活支援（自助具の提案、ADL・IADL指導）、メンタルケアなどを行っています。

また重症心身障害児者病棟では、変形拘縮へのポジショニングや遊びの提供、笑顔発見に努め、ポストNICU病棟では、子供の将来に向けて今後の方向性を家族と共に考えていく事を重要視し、機能訓練や生活指導等に取り組んでいます。

さらに当院では、新型コロナウイルス感染症患者さんや結核患者さんの隔離病棟も設置され、実際に病棟へ出向き、廃用予防やメンタルケア、退院後の生活指導等の作業療法を実施しています。



教育体制

教育体制としては新人教育プログラムをもとに“気づき・考え方”の幅の広がりに着目し、さまざまな方面から患者像を捉える事ができるよう、OTのみならずPT・STとも密にコミュニケーションを取る事で、リハビリテーションスタッフ全体が指導・助言を行っています。

学術活動

さまざまな学会発表や保健所での神経難病に関する講演会、東温市で開催される健康フォーラムや親子の医療体験学習など、院内外での学術・講演活動を行っています。国立病院総合医学会への参加も行ってまいります。

他部門との連携

各科ごとに定期的に多職種（医師・看護師・ソーシャルワーカー・療育指導士・保育士など）とのカンファレンスを実施しています。

呼吸、栄養、糖尿病などのさまざまなサポートチームにリハビリテーションスタッフが所属し、それぞれのチームで他職種と共に勉強会を開催したり、連携を図っています。

先輩からのメッセージ

スタッフ皆和やかで相談などが気軽にできる環境にあり、育児や介護などの長期休業の際にも、お互いを気遣い気持ちよく仕事できています。また急性期～維持期まで幅広く関われ、様々な疾患の患者さんに携わることができるのも魅力の一つです。

その他にも感染対策や医療安全に対して他部門と協力し、力を入れています。





高知病院

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士3名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院では、主に呼吸器疾患、整形疾患、がん、重症心身の患者さんに対して理学療法を行っております。呼吸器に関しては、平成23年8月に呼吸器センターを設立し、医師、コメディカルと協力して包括的に診療することができるようになっております。整形疾患では、脊椎疾患、人工関節、骨接合術後の患者さんが多く早期から関わっています。

職場責任者からのメッセージ



私たちは「患者さんへ最善のリハビリテーション医療を」という理念のもと、職員一人一人がリハビリテーション専門職として働いています。高知県では唯一の国立病院機構施設で、結核病棟や療養病棟、新型コロナウイルス感染症病棟といった地域のセーフティネットの役割を担っています。また整形外科の手術件数が多く、急性期運動器リハビリテーションの専門性を高めることができます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：

〒780-8507 高知県高知市朝倉西町1-2-25
 電話番号（代表）：088-844-3111
 リハビリテーション科（渡利）まで
<https://kochi.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では主に整形疾患（肩関節疾患や脊椎脊髄疾患など）・呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患・間質性肺炎・肺がんなど）・重症心身障害児者（発達促進を含む）を対象としたリハビリテーションを中心に取り組んでいます。

特に当院では、肩関節疾患と脊椎脊髄疾患の患者さんが多いです。このため関節鏡下肩腱板断裂手術や頸椎椎弓形成術、固定術などの術後リハビリテーションに関わる機会が多く、作業療法ならではのADL指導や機能訓練を展開しています。



教育体制

新人教育プログラムによる卒後教育のほか、学会発表などの学術的支援体制、臨床業務に関わる支援なども整っています。

学術活動

各学会や国立病院総合医学会などの学会で研究発表を行っています。

◇第111回 高知県整形外科集団会「リバース型人工肩関節置換術後の短期成績について」

◇令和4年 国立病院総合医学会

「頸椎性脊髄症に対する椎弓形成術術後の上肢運動機能の改善に影響を及ぼす因子の検討」

「リバース型人工肩関節置換術における術前の腱板筋脂肪変性が及ぼす患者立脚型評価への影響」

各学会、研究会などからの講師依頼においてスタッフの派遣を行っています。

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に他職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。

在宅医療に関わる職種（訪問医療や看護・リハビリテーション）の方々と、退院前カンファレンスや退院前支援などを行い、地域医療と関わりが深いのも特徴です。

先輩からのメッセージ

当院では業務的な支援はもちろん、学術面においても研究や講習会への参加を積極的に実施できる環境にあります。また院内研修なども充実しており、「学びたい」や「習得したい」といった個々の希望に対し、スキルアップマネジメント面において、充実した体制といえます。

リハビリテーション科内の雰囲気も明るく、職種問わず相談ができるのも当院の強みであると感じています。ぜひ国立病院機構中国四国グループと一緒に働いてみませんか？

